The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	シナリオ・テストの研究 : 特に精神障害発症前・後の比較研究
Author(s)	大野, 周子
Citation	大阪大学, 1968, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29486
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【40】

氏名・(本籍)	大野周子（おおのかねこ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 1323 号
学位授与の日付	昭和43年1年27日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文名	**シナリオ・テストの研究** **——特に精神障害発症前・後の比較研究——**
論文審査委員	(主査) 教授 金子 仁郎 (副査) 教授 佐野 勇 教授 西川 光夫

論文内容の要旨

〔目　　的〕

〔目的〕：1. シナリオ・テストを各種精神障害者ならびに非行少年に施行し，本テストに反映されるその特性を明らかにする。2. 精神障害が具体化する以前に得られた本テスト成績を 1. と比較し，障害が具体化する前後における人格構造の関連性，およびその発症との関係を問う。3. 同時に本テストの screening test としての predictability を明らかにする。

〔対象〕：1.精神分裂病98名（内陳旧例56名，完全寛解状態 42名），精神神経症 81名，自殺未遂18名，非行少年33名。2. あらかじめ12,168名に本テストを施行した者のうち，その後，精神分裂病を発症せる者 6 名，同じく精神神経症12名，自殺企図者 8 名。

〔方法並びに成績〕

〔方法〕：シナリオ・テストは，TAT の絵画刺激と言語刺激に置換えることによって，集団施行を可能としたもので，指定登場人物を必ず登場させて空想的な物語をつくらせる。その指定は，それぞれ両親，同僚，異性，上長者との関係，および悩める人である。

〔成績〕：本テストに見られる各種精神障害の特徴は以下の如くである。

精神神経症：暗い調子の物語や結末の悪い物語，不安定な情緒内容の描写等が多く，対人関係では強い敵意や攻撃を示しつつも，一方では相手との依存的なかかわり合いを求めるという ((対人関係でのからみ合い)) の特異な様相を示している。主人公に被験者と距離のある年令や性の者および神経症者（発症前症例では少い）を設定する事が多い。以上の特徴は発症前後を通じて共通して見られた。

精神分裂病：陳旧例，完全寛解例，発症前症例の三群について比較検討し下表を得た。

①三群に共通して見られる特徴は，感情のない調子の物語，孤立傾向，親子関係における稀薄な情緒関係，に反映される特異な自閉的孤立傾向と，障害的自己像，必須登場人物の人物像が稀薄であるこ

		陳旧例	完全寛解例	発症前症例
形式面	物語構成	非常に悪い	比較的良い	比較的良い
	奇妙な内容	多い	なし	なし
	感情のない調子の物語	多い	比較的少い	多い
	必須登場人物の重要な役割	少い	少い	少い
主人公の像		没個性的，病者（精神病者），孤立傾向（＋）	病者（身体疾患，精神病者），孤立傾向（＋）	天才的犯罪人，二重人格者，無価値劣悪な人間，孤立傾向（＋＋）
親子関係		稀薄な情緒関係	稀薄な情緒関係	稀薄な情緒関係

と，の中に見られる自我の弱さとである。②三群間の相異点としては，㋑陳旧例で，拒否反応，文章量，物語構成，奇妙な内容，物語の時制等の形式面の異常が特異的に見られる。㋺発症前症例は自己像や自閉的孤立傾向に関して最も障害的である。完全寛解例は感情のない調子の物語が最も少く親子関係も他の二群に比し良い。③以上の成績は分裂病の発症の前後を通じて，精神力動に一貫した連続性が存在することを示唆すると共に，分裂病が発症する事によって発症前の障害の強さが稀釈され，陳旧例においては病者が没個性的になると共に病態化が固定し，完全寛解例では疾病の具体化による障害の稀釈が寛解に役立ち，発症前のパーソナリティがより望ましい方向への生成発展を起していると考え得る。

自殺：自殺未遂後と自殺企図前に分けて検討した。表に示す如く，両群の間には殆んど質的な差異

	自殺未遂後	自殺企図前
主人公の感情状態	孤立，虚無感，自殺（企図，念慮）	同じ傾向
	人間不信，解決のない葛藤	より強い
主人公の像	知的欲求，高い理想，劣等感	同じ傾向
	自己嫌悪	より強い
	自己の能力に関する高い関心と劣等感	同じ傾向
親子関係	両親：知的達成に関して強い要求・期待，支配的 子供：批判的，不信，屈従的	同じ傾向

を認めず非常に類似した傾向を示している。ただ自殺未遂後は文章量が極めて多く，自殺行為に対する反省や生の肯定，生への努力が認められることが企図前と異っている。企図前には抑うつ感の直接的表現や，抑うつ感に根ざした自殺念慮は見られない。

非行少年：非行についての描写や非行の主題を選択する事が多い。権威像の設定が少く親子関係や上長者との関係が不良な反面，同僚とは反社会的行為を通じて良好な関係を示している。主人公の像

としては，非行少年や性格異常者が多く，性格傾向では活動的衝動的で優越欲求が強く，体力・権力への関心が大であるという特徴が見られた。

〔総　　括〕

①上記の各疾患に関しては，発症前と発症した状態との間に精神力動に関して一貫性のある事をシナリオ・テストにより実証的に捉えた。②この一貫性は，自己像とか，対人関係での基本的な態度や情動的な関係でのあり方，葛藤の処理の仕方等のパーソナリティ構造の側面に主として表れており，現象的な変動により余り影響をうけない人格のかなり深層の問題を投影している。③シナリオ・テストにより捉えられる上記精神障害の特徴は，各障害に特異的であり，本テストは臨床的所見と合せ用いるかぎり人格診断上有効であると共に，また精神医学的知識を持ってテストに習熟することによって，screening および predictive な面で充分に役立ち得ると思われる。

論文の審査結果の要旨

シナリオ・テストは著者らが基礎的研究を行ない，新しく開発した投影法である。本テストが集団法として施行できる特徴を利用して，発症後だけでなく精神障害が具体化する以前の貴重な本テスト成績を獲得している。従来，遡及的にしか追求することができなかった精神障害者の発症前のパーソナリティ構造を，心理テストという客観的方法によって捕えた資料に基づいて追求している点に，本研究は方法論的にもきわめてユニークな研究である。

本研究は，とくに発症前と後との比較的研究に問題の焦点をしぼり，精神力動的観点に立って考察を進めている。記述的水準では不連続的なものとして捕えられる精神異常の発現の背後に，それと密接に関連して連続的に働き続けているパーソナリティ構造について論究しており，とくに精神分裂病や自殺についていくつかの新しい知見を見出している。

精神異常を全人格的に了解し把握しようとする精神病理学上のきわめて今日的な課題に，心理テストという客観的方法を用いて答えるとともに，いくつかの問題を提起している。かかる点に本研究の意義があり，心理テストや精神病理学，さらには予防精神医学の領域で寄与するところ大である。